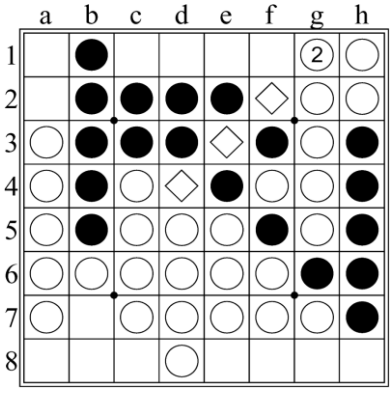
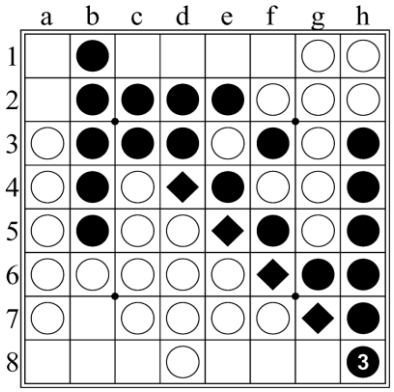
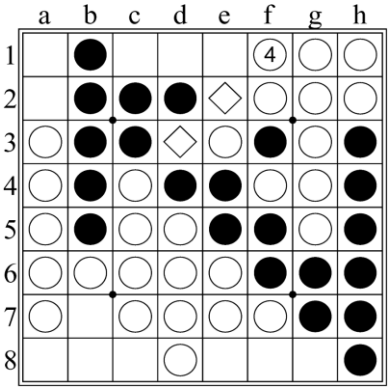


（10図）

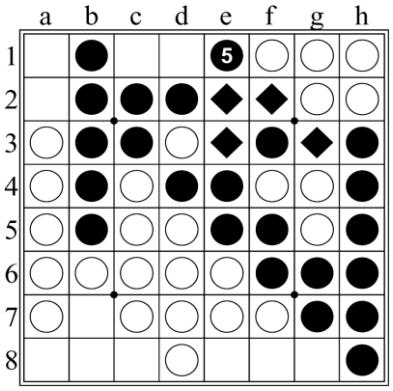


（11図）

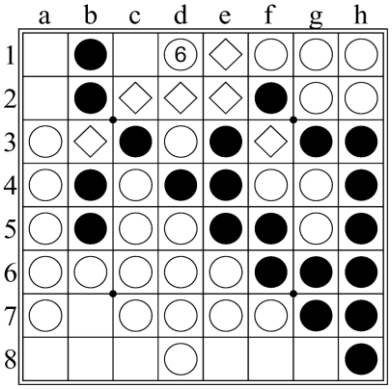
白は、簡単に黒a2を打たせて左辺を与えるようでは、再び逆偶数形になって黒に楽をさせてしまうので、12図のように先に上辺を固めます。もし、ここで11図の後に白g8と打ってしまうと、以下黒f1→白e1→黒d1→白a1→黒a2で、左辺ウイングに割り込まれてしまいますので、12図の13、14図と黒は上辺を取らせるように打つことで白の手を詰めます。



（12図）



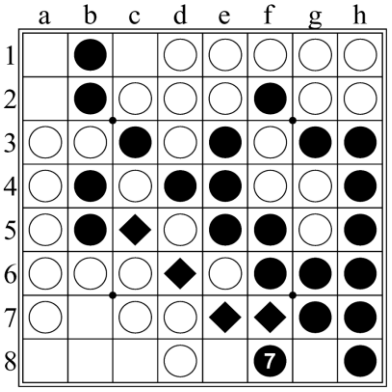
（13図）



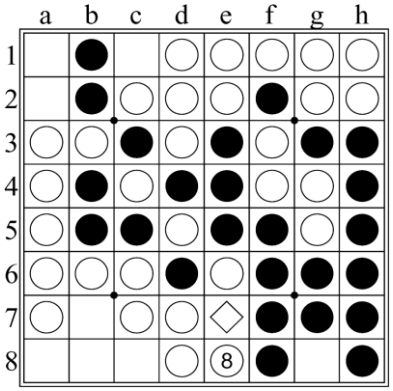
（14図）

この14図の局面で黒がうっかりc1と打ってしまうと、白にa1、a2と連打をされてしまいますので、次の黒はe8(15図）と下辺に手を付けます。これで黒a2に打てるようにします。

15図の局面で、将来黒a2→白??→黒a8と打たれると逆偶数形にされてしまうので、白はe8（16図）またはg8と打つしかありません。白e8でも白g8でも、どちらも同じ流れとなるので、ここでは白e8のみの流れを示してみます。黒はb1（17図）と打ち、白a1を誘います。

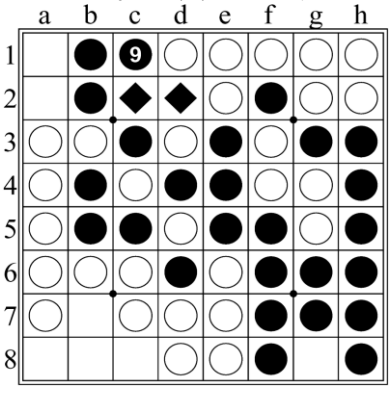


（15図）

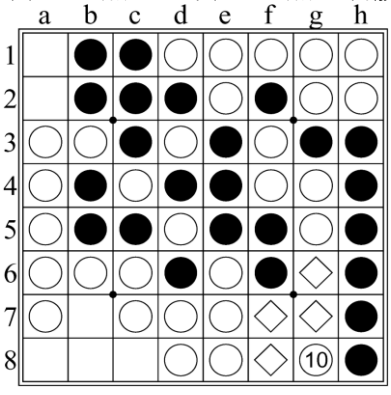


（16図）

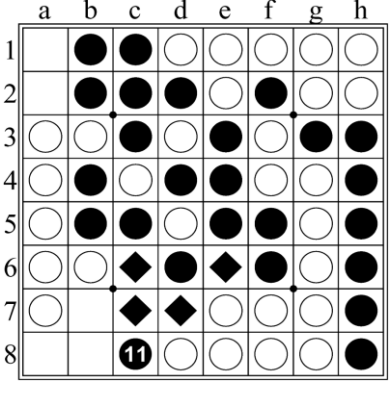
白はa1と取るわけにいかないのでg8（18図）と逃げます。そして黒はc8（19図）と下辺を取って手を渡します。19図以降は、白a1→黒a2→白b8→黒a8→白b7で黒２石勝ちとなります。



（17図）



（18図）



（19図）